

水筒やタンブラーを持ち歩こう

■プログラムの概要

ねらい	外出する際や遠足の持ち物を児童、生徒が主体的に考える活動を通して、環境という視点を持って物事を考えることができるようにする。		
キーワード	ごみ・資源、エネルギー		
対象	小学5年～中学3年		
時間	80分	実施場所	教室
使用するもの	主張する側に掲示するペットボトル派・水筒派と書いた厚紙資料（例：ペットボトルの生産量のグラフ、ペットボトルのリサイクル率 ペットボトルのリサイクルの流れ、水筒のメリットの資料 など） 見本用ペットボトル、見本用水筒又はタンブラー		
全体の流れ	<ol style="list-style-type: none">1. 導入 普段、水筒とペットボトルではどちらが多いか各自振り返ってみる。2. 本時の課題を確認する。3. ペットボトル派と水筒派の各立場での主張を発表する。4. 各主張者に質問、意見を行う。5. 2回目の主張を行う。6. 簡単な感想を書く。7. 考えを発表する。		

■進め方

時間	学習内容	指導上の留意点
5分	<p><導入></p> <ul style="list-style-type: none"> • 普段の生活の中で、水筒とペットボトルではどちらが多いか各自振り返ってみる。また、その理由は何か、考えてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 例えば、外出先で喉が渴いたらどうしていますか?、と投げかけてみる。
5分	<p><本時の課題を確認></p> <ul style="list-style-type: none"> • 遠足での飲み物を入れるのは、ペットボトルがいいか、水筒がいいか、ディベート形式で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 司会、黒板記録、各立場（残りの児童・生徒を半数）の役割を事前に決めておき、各立場での主張の下調べをさせておく。
30分	<p><各立場での主張(メリット)のまとめ・発表></p> <p>○ペットボトル</p> <ul style="list-style-type: none"> • 軽い、リサイクルできるなど <p>○水筒</p> <ul style="list-style-type: none"> • 冷たいものでも熱いものでも持って行ける。何回でも使えるなど 	<ul style="list-style-type: none"> • 教室を半分に分け、立場ごとに席を分ける。 • いろいろな視点から考えるようにさせる。 • とくに環境の視点でも考えるように助言する。
20分	<p><各主張者に質問・意見></p> <p>○ペットボトル派に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> • ごみが増えるのではないか、石油の無駄遣い、毎回買うのでお金がかかるなど • 製造過程やごみになるまでの過程など <p>○水筒派に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> • 重い、壊れたらリサイクルできない、水筒を買うのにお金がかかる、すぐに飲めないなど 	<ul style="list-style-type: none"> • 感情的にならないように、揚げ足取りにならないようにさせる。 • 質問、意見に答えること、新しく主張したいことをまとめて2回目の主張を行う。 • 指導者がそれぞれの立場で出ていないデータを補足説明する。
10分	<p><2回目の主張の発表></p> <p>○ペットボトル</p> <ul style="list-style-type: none"> • 捨てずに家に持ち帰り、何回でも使う <p>○水筒</p> <ul style="list-style-type: none"> • 流行に左右されてすぐに新しいものを買わずに、未永く大切に使う。 	
10分	<p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> • 話し合いを終えて考えが変わったこと、なるほどと思ったことを発表する。 <p>例：ペットボトルも使い切りで捨てるのではなく、何回も使用したい。</p> <p>例：すぐに新しいものを買わずに、水筒も長く大切に使うことが大切だ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • どちらが正しいかではないことをしっかりと確認する。 • ペットボトルがいいか水筒がいいか、自分の主張を含めた感想を簡単に書かせる。 • 環境の視点で物事を見ることをおさえたい。 • 環境の視点で主題について考えたか（発表、挙手、感想文）。

■使用するもの

物 品 名	数 量	備 考
見本用ペットボトル		
見本用水筒又はタンブラー		

■実施にあたって留意する点

- どちらが正しいか、ではないという点をしっかり確認する。
- 環境の視点でみるよう助言する。
- 自分たちにもできることを考える。

